

平成 27 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

【めざす学校像】

- 校風・校是「自由と創造」「日新日進」のもと、生徒一人ひとりが自分の色を輝かせ、全体で虹の架かる学校
- 将来の「大阪」とグローバル化に対応する人材と「大阪の教育」をリードする教員が育つ学校
- 生徒・保護者・地域住民から信頼される学校

【生徒に育みたい力】

- 強靱な知性・みずみずしい感性・品格ある人間性
- 確かな学力（自己実現のための学力、知的好奇心、探究心 等）
- 生きる力（客観的事象分析・問題解決能力、意見表明・プレゼンテーション能力 等）
- 豊かな心（生命・人権の尊重、規範意識、異文化理解、多文化共生 等）
- 社会参加力（社会参加、社会貢献 等）

2 中期的目標

1 確かな学力を踏まえつつ、高い志を育み、進路実現をめざす取組みの推進

(1) 生徒のもつ学力を最大限に引き出す

ア 魅力ある授業の実施

効果的な補助教材の作成、教員の指導技術の一層の向上に努めるとともに、本校独自の「Can-do リスト」を作成し、生徒に明確な道標を提供する

*生徒向け授業アンケートの項目 8・9（内容に興味・関心が持てた・知識や技能が身についた）の平均点（H26：3.1／4点満点）を平成 29 年度までに 3.2 以上に引きあげ、維持する

イ 講習・補習の充実

放課後、土曜日、長期休業中等の講習内容と規模を充実させ、進路実現に向けた指導を行う

*難関国立大学（京都大、大阪大、神戸大）への合格者数（現役生＋既卒生／H26：70 人）を平成 29 年度までに 80 人以上に引きあげ、維持する

*国公立大学への現役生の合格者数（H26：133 人）を毎年 130 人以上で維持する

ウ 英語運用能力の向上

英語で授業を行うことを基本としつつ、外部試験等を活用し、英語コミュニケーション能力の目標を明確に示すことで、生徒の英語運用能力を総合的に高める

*実用英語技能検定試験 2 級合格者数（H26：181 人）を毎年 100 人以上で維持する。

*TOEFL iBT（チャレンジ）のスコア取得（H26：60 以上 3 人／60 人）を平成 29 年度までにステージ 2（対象人数の 10%以上が 80 点以上、20%以上が 60～79 点）に引きあげる

(2) 生徒の科学的素養を拡大・定着させ、探究心を高める

ア 文理学科「課題探究講座」（文系・理系）の内容のさらなる充実と全校生徒での共有

*文理学科 2 年生の「課題研究」に対する満足度を高めるとともに、普通科生徒の参加数（H26：約 120 人）を平成 29 年までに 150 人以上に増やす

イ 創造探究事業（高大連携）の内容の充実

*1・2 年生の文理学科の外部連携事業への延べ参加者数（H26：725 人 12 月末現在）を平成 29 年度までに 960 人に引きあげ、維持する

ウ 海外の科学先進校との交流の推進

海外の科学先進校等との交流日数を増やすとともに、共同研究や共同発表会等を実施するなど、交流内容を充実させる

*交流日数（H26 年度：3 日）を平成 29 年度までに 10 日に増加させ、維持する

(3) 進路指導をさらに充実させる

ア 自己実現に向けた体験型進路学習（職場訪問、大学研究室訪問）の充実

1 年生は、望ましい職業観・勤労観を育成することを目標に、訪問時のインタビューの精度を高めるとともに、プレゼンテーションの質的向上を図る

2 年生は、大学における学問・研究に対する理解促進を目標に、生徒同士が学んだ内容について実施するポスターセッションの質的向上を図る

*1・2 年生とも訪問先（H26：1 年生 63 カ所、2 年生 52 カ所）を 50 カ所以上、生徒満足度（H26：95%）を 90%以上で維持する

イ 3 年間を見据えたキャリア教育の充実

学校としての進路指導方針（高津進路プログラム：K S P）を確立し、学年の進路指導ホームルームや進路説明会をより系統的に計画・実施する

*生徒・保護者向け学校教育自己診断の進路指導への満足度（H26：83%・78%）を、平成 29 年度までに生徒 85%、保護者 80%以上に引きあげ、維持する

2 スクールアイデンティティに基づく、豊かな心の育みと規律・規範の確立

(1) 人権尊重と生徒の社会体験活動の促進

*生徒・保護者向け学校教育自己診断の、人権に関する指導に対する肯定率（H26：生徒 80% 保護者 76%）を、80%以上に引き上げ、維持する

*部活動参加生徒による「高津キャラバン隊」の実施クラブ率（H26：70%）を、平成 28 年度までに 90%以上に引きあげ、維持する

(2) 規律・規範意識の向上

*年間の遅刻者総数（H26：1,639 件 12 月末現在）を 2,000 件以下で維持する

(3) 生徒の自主的活動の活性化（部活動、生徒自治会活動）

*部活動加入率（H25：88%）を、85%以上で維持する

*記念祭（体育祭・文化祭）における生徒実行委員会（三部会）に参加する生徒数（H26：220 人）を 200 人以上で維持する

(4) きめ細やかな保健指導と教育相談体制の充実

*生徒向け学校教育自己診断の保健室利用、教育相談に対する満足度（H26：70%）を、平成 29 年度までに 75%以上に引きあげ、維持する

3 教職員の資質向上と学校運営体制の確立

(1) 教科指導力の向上

*生徒向け授業アンケートの全項目平均値（H26：3.2／4点満点）のさらなる向上に努める

(2) 研修の充実

*教員向け学校教育自己診断の校内研修に関する肯定率（H26：76%）を、平成 29 年度までに 80%以上とし、維持する

(3) ミドルリーダーや経験の少ない教員の育成

*教員向け学校教育自己診断のミドルリーダー育成に関する肯定率（H26：55%）を、平成 29 年度までに 70%以上とし、維持する

(4) 学校の組織的運営

*教員向け学校教育自己診断の各分掌や学年・教科等の円滑な連携・有機的機能に対する肯定的意見（H26：58%）を平成 29 年度までに 80%以上とし、維持する

(5) ICT活用ならびに実験・実習、体験的な教科指導の充実、校務の効率化及び情報共有

*生徒向け学校教育自己診断の ICT 活用や実験・実習、体験的な教科指導に対する満足度（H26：82%）を、80%以上で維持する。

*教員向け学校教育自己診断の、校務の効率化及び情報の共有に対する肯定的意見（H26：48%）を、平成 29 年度までに 70%以上とし、維持する

(6) 地域に開かれた学校づくりの推進

*生徒による社会体験・貢献活動（ボランティア講座、支援学校との交流、クラブ員によるキャラバン隊 等）をさらに活性化させる。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成 年 月実施分]	学校協議会からの意見

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
確かな学力をふまえて、高い志を高く、進路実現をめざす取組み	【進路実現に重点を置いた教育課程の再構築】 ア 文理学科2年次の課題探究講座の充実	ア・文理学科2年次の「課題研究（高津LCⅡ）」において、大学等外部機関との新たな連携を進め、より効果的・効率的に生徒の探究心とプレゼンテーション能力の向上を図る。（継続・発展）。また、生徒発表会への普通科生徒の参加を増やし、その成果をより多くの生徒に普及させる。（継続）	ア・文理学科2年生の「課題研究（高津LCⅡ）」に対する満足度（H26：93%）100%をめざす。 ・研究発表分科会への普通科生徒の参加人数（H26：約120人）を150人以上に増やし、参加した生徒にアンケートを実施（新規）し、満足度を80%以上にする。	
	イ 魅力ある授業等の実施	イ・効果的な補助教材（ICT活用を含む）の開発とともに、教員同士の授業交流と研究協議を一層活発にし、指導技術をさらに高める。（継続・発展） ・授業におけるICTの活用を図る。（充実） ・高大連携事業等をすすめ、大学における学問や研究に対する興味関心を高める。（充実） ・1・2年生全員対象に英語少人数集中講座を通して、英語コミュニケーション能力を向上させる。また、1・2年生を対象に、実用英語技能検定試験、TOEFLiBT（チャレンジ）等の受検を促進する。（発展） ・土曜講習や補習等の内容をさらに充実させ、生徒の学力を向上させる。（充実）	イ・生徒向け授業アンケートの項目8・9（内容に興味・関心を持った・知識や技能が身についた）の平均点（H26：3.1/4点満点）を3.2以上に引きあげる。 ・生徒・教員向け学校教育自己診断の、授業におけるICT活用についての肯定率（H26：生徒82%、教員51%）を、生徒85%、教員55%に引きあげる。 ・高大連携事業への参加生徒数（H26：725人・12月末現在）を900人以上に引きあげる。 ・1・2年生全員に実用英語技能検定試験の受験を促し、英検2級合格者（H26：181人）を100人以上で維持する。 ・生徒向け学校教育自己診断での肯定率（H26：76%）を80%以上に高める。	
	ウ 体験型進路学習の充実	ウ・総合的な学習の時間を活用し、7月と11月に実施する体験型進路学習を通して、進路に対する意欲を高める。（継続・発展） 1年生「職業人からの聴き取り」 2年生「大学等研究室の訪問」	ウ・生徒の満足度（H26：95%）を90%以上で維持する。	
	エ 教育課程の点検	エ・生徒の進路実現をより強く支援する観点から教育課程を再構築する。（継続・発展）	エ・H28年度から導入するTOEFLiBT受験に向けたコースについて、詳細まで決定し広報する。 ・生徒向け学校教育自己診断での教育課程に関する肯定率（H26：69%）を75%以上にする。	
豊かな心のはぐくみと規律・規範の確立	【人権尊重と規範意識の向上】	ア・学年進行に応じて、計画的に人権尊重の精神を涵養する。（継続・充実）	ア・生徒・保護者向け学校教育自己診断での肯定率（H26：生徒80%保護者76%）を、ともに80%以上に引きあげる。	
	ア 人権尊重精神の育成	・SSH事業等を通して、海外の高校生等との交流を促進し、国際理解を促進する。（充実）	・生徒・保護者向け学校教育自己診断での満足度（H26：90%）を90%以上で維持する。	
	イ 社会体験・社会貢献活動の促進	イ・社会体験・社会貢献活動を促進する。（継続） 東大阪支援学校、視覚支援学校との交流 クラブ員の社会貢献活動「高津キャバ隊」 高校生フェスティバルでの高齢者との交流	イ・全クラブが社会体験・貢献活動を年1回以上行う。	
	ウ 基本的生活習慣の定着	ウ・挨拶の励行と遅刻者数の減少に取り組む。（充実）	ウ・遅刻者数（H26：1,639件/12月末現在）を2,000以下で維持する。	
エ 教育相談体制の充実	エ・支援や配慮を要する生徒対象に、スクールカウンセラーによる助言等の機会を通して、生徒及び保護者の悩みの解消に努める。（継続・発展）	エ・生徒向け学校教育自己診断の保健室利用、教育相談に対する満足度（H26：70%）保護者の学校への相談に対する満足度（H26：62%）をともに5%以上引きあげる。		

教職員の資質の向上と学校運営体制の確立	【教師力の育成】	ア・教員間の授業交流の促進、研究授業・協議を一層活性化させ、さらなる授業力向上に努める。(充実)	ア・生徒授業アンケート全質問の平均値 3.2 以上を維持する。
	ア 教科指導力の向上	・生徒による授業評価(年2回)や授業公開等を実施し、その結果を教員・教科にフィードバックし、授業改善に生かす。(発展・新規)	
	イ 教職員研修の充実	イ・人権や教育相談をはじめ、校内研修や学校外の研修を通して、諸課題に対する理解を深める。(継続・充実)	イ・教員向け学校教育自己診断における満足度(H26:76%)を75%以上で維持する。
	ウ ミドルリーダーや経験の少ない教員の育成(講師を含む)	ウ・今年度の最重点課題として、より効果的・効率的な業務遂行が可能となる、本校らしいヒエラルキーを構築し、計画的なミドルリーダー育成に努める。(新規・充実)	ウ・教員向け学校教育自己診断における肯定率(H26:55%)を60%以上に引きあげる。
エ 校務のさらなる効率化と情報共有	エ・学校のさらなる組織的運営を図る。(継続・発展)	エ・教員向け学校教育自己診断における肯定率(H26:48%)を60%以上に引きあげる。	